

令和6年度 伊那市立東部中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
(1) 真剣にねばり強く学習する生徒 (2) 広く豊かな心を持つ生徒 (3) 勤労を尊び、仕事に打ち込む生徒	東部中 Pride 「東部中のもつ活気と躍動感」をつなげる心意気 「東部中らしさ・東部中として」と誇れる思い
	今年度の重点目標
	(1)自主・自立 「自分で考え」「自分で決め」「自ら動く」 ・自分を知り、あらゆる場面で自分が決める機会を ・授業で育てたい主体性・自主・自立の力
	(2)多様な学び～自己理解から～「違うからこそ学び合う」「違いを認め合う広さ深さ」 ・自分らしい生き方へ ・「独りになる」ことと「誰も一人にしない」 ・授業で一人一人の学びを保証
	(3)アセスメントを活かした授業改善 ・感覚からエビデンスに即した授業改善 ・感覚から学習指導要領に即した、主体的・対話的で深い学び

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)学力の向上について…全校研究テーマを「学び合いのある学習～一人一人が生きる授業の創造～」とし、東部中「学び合い style」を推進した。生徒同士が「聴く」「観る」「伝える」活動をし、対話的・主体的で深い学びになるような授業展開を実践してきた。また、定期テストや単元ごとの評価から個に応じた指導を行ったり、生徒に授業内容の振り返りカードを記入させ、一時間の学びの成果や課題など生徒の理解の状況を見届けたりすることで学力の向上につなげた。職員が小グループで校内 QJT を取り入れた授業づくりを推進し、相互参観の取組みを継続し授業力の向上を図った。生徒会学習委員会による毎学期の学習集会やテスト前のチャレンジタイム、自学ノートを利用した家庭学習や iPad の有効利用方法等の発信を通して、生徒たちの主体的な取り組みを推進している。また、諸事情で登校できない生徒へ向けて授業のオンライン配信を進め、学習保障に努めた。		
(2)生徒指導に関わって…個々の事案に対して、生徒指導主事を中心とし、担任・学年職員とが連携したチーム体制で情報共有・役割分担を行い速やかな対応をしてきた。生徒保護者との対話や丁寧な聞き取りを大切に、相互理解の上で対応にあたっている。不登校生徒へは担任、登校支援コーディネーター、教頭が中心となり家庭と連絡を密にとりながら、外部機関とも連携して登校支援をしてきた。月2回の登校支援委員会で欠席状況の把握や支援の振り返り、SC と関係職員とのスクリーニング会議を毎回行い、早期対応に努めた。生徒が安心できる居場所の提供や進路の相談など丁寧にやってきた。		
(3)楽しい学校を目指して…コロナ以前のように1学年宿泊体験学習、2学年登山などが計画通り行うことができ、学年の結束強めた。文化祭や合唱発表会、体育祭など生徒の思いを大切に、工夫しながら進めることにより、生徒自身の達成感へとつながった。部活動では精一杯励み、各種大会やコンクールで好成绩を残すとともに、継続して取り組む中で自主性や粘り強さを育む場ともなった。祖父母に感謝する会についても地域感謝交流会に名称を改め、祖父母のみならず、日頃からお世話になっている地域の方も参加できるよう工夫し、新たな地域とのつながりを持つ機会となった。加えて、公開授業も2回行い、県内より教育関係者を含め、延べ100人を超える参加者があった。「さくらプロジェクト」においても、オンラインではあったが、生徒会役員の工夫によって全校生徒が交流することができた。またこの活動の意味や、仙台市立高砂中学校の取り組みや思いを知ることができた。学校評価で「学校が楽しい。東部中でよかったと感じる。」と答えた生徒が各学年で8割を超えている。これからも個々の生徒が、東部中Prideを感じられるような学校運営を行っていききたい。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)「自主自立」について 学校自己評価では「理解を深めるための授業として、自分に合っているのはどんな授業か。」という問いに対して、「先生がわかりやすく説明してくれる授業」を望む生徒が多いが、自分たちで課題を立て、意見交換しながら学びを進めるスタイルを取り入れてほしいと願う生徒も学年が上がるにつれ増えており、生徒もその学びの良さを感じている。また、授業の中で学習課題や学習問題といった、ねらいを明確にし、授業終末の振り返りを大切に考え行っていることは、分かりやすい授業に繋がっている。「自主的に家庭学習に取り組んでいる」と回答した生徒は、1、3年生は約7割であるが、2年生は低い割合である。自学ノートを中心とした家庭学習に対して、学習集会を設けたり、個別に助言を行ったりすることで取り組みの向上が見られるが、また課題は与えられるものという意識もあるため、学び方への支援が課題である。	A a	○今後も、状況を見ながら、生徒主体の授業展開を意識し、生徒同士の学び合いを大切にしながら学力の向上を図りたい。学力が定着していない生徒に対しては、主体的に取り組める学習プリント等の個別支援に加え、学びに向かう力、人間性等にも着目し、生徒の主体性を支援したい。 さらに授業と家庭学習を結びつける取り組みを教科内、学年で検討したい。十分に取組めない生徒に対しては、個別に支援を行っていく。学習委員会の活動としても、自ら学ぶ、共に学ぶ方法を環境の工夫や学び方の工夫等、生徒と共に考えていけるとよい。
(2) 多様な学び～生き方～ 道徳や人権教育を大切に、他者理解や自分の生き方についての学習を進めている。今年度「多様性を認め合う」観点から「LGBT」について各学年の実態に合った教材を用いると共に、新しい制服導入に向け、PTA と連携し、講演会、学習会を行った。生徒の感想から「多様な考えにふれ、自分の考えだけが当たり前と決めつけず、相手の立場に立って考えることの大切さ」を感じている生徒が多かった。	B b	○生徒同士が意見を交換し、多様な考えを共有しながらお互いを尊重できるような活動を、道徳や人権教育だけでなく、教科学習でも大事にしていきたい。また、各学年でのキャリア教育を進め、本年度実施したような、様々な人(家族・地域の大人・先輩など)の生き方に触れる機会を大切にしていきたいと考える。
(3) 授業改善は進めたいが、どうしていいかわからないと感じている先生が多い中、生徒のアセスメントを導入し、背伸びしすぎることなく生徒の実態に即した授業を目指した。学習指導要領を意識した、単元のまとまりで考える大切さも広まりつつある。	B b	○「教師にとっての授業の大切さ」「授業の向上により生徒指導の多くが未然に防げる」意識が高まった一年間であった。優れた授業実践よりも全ての授業が改善されるよう全職員で一層意識し、取り組みたいと考える。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○特色ある学校行事	○生徒が主体的に取り組む、成就感、達成感を味わうことができたか。
		○特色ある生徒会活動	○日常活動での取り組みで、学校生活をよりよくするために、相手を大切にすることができたか。
	学習指導	○生徒の実態に即した授業改善	○生徒が主体的に考え、意欲をもって取り組める授業であったか。
		○学力向上に向けた取り組み	○個々の学習を丁寧に評価し、授業改善に生かすことができたか。
	部活動	○人間性や社会性を育てる部活動	○部活動を通して生徒の人間性や社会性を育てることができたか。
		○より深く楽しむ部活動	○部活動に親しみ、より深く活動の良さを知り、生涯にわたって楽しむための素地を養うことができたか。
生徒指	○人間関係でのトラブルへの対応	○人間関係でのトラブルに対し、早期発見・早期対応ができたか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○文化祭では生徒会企画やバラエティショーなど、生徒が主体的に取り組む姿が見られた。合唱発表会では、各クラスがより良い合唱を目指して主体的に練習し、学年を超えて聞き合い、当日は心打つ合唱を作り上げることができた。	A a	○学校行事では、生徒が目標や励みを持って生活できるように工夫していく。また、各行事でつづける力を明確にするとともに、個々の生徒の良さや個性が発揮でき、満足感の持てる行事になるようにしていく。合わせて、特別活動の時間にも時数に限りがあるため効率的に準備や振り返りを進められる体制を考えたい。
○宿泊行事については、1学年高速宿泊学習が実施できたが、2学年登山は天候や道路事情により実施できなかった。学年で積み上げてきたことが成功につながったことに満足感を得ている生徒が多い。	A a	○東部中の伝統として、清掃、あいさつ、合唱などの活動を、生徒会の核にしながら引きついでいく。職員もこの良さを保つために生徒とどう協働するか、意識統一を図っていく。
○生徒の授業評価では、「授業で、単元や1時間の授業の内容がわかる」と答えた生徒がどの学年でも80%を超え、3年生は約90%に達している。生徒の意識に沿った学習問題や学習課題の設定をしてきた成果と言える。また、iPad を効果的に用いた授業やデジタル教科書などのICT機器を積極的に取り入れることもできている。	B b	○単元のまとまりで資質・能力を着実に育成できるよう、生徒の実態と教材とを検討し、より生徒に適切な学習課題を据えていく。どの教科でも指導と評価の一体化を意識し、短期、長期の達成目標を明確にして授業を行い、改善していく。
○定期テストや単元ごとの評価を用い、個のつまずきを支援してきた。学び直しの機会を積極的につくり、友だち同士で説明する場を設定したりしてきた。	B b	○全国学力・学習状況調査などの結果を参考に、各教科会で指導の重点を検討し授業改善を図る。また、校内QJTを継続し、教職員の小グループでの話し合いや授業づくりの機会を多くとり、職員の授業改善を図っていく。
○練習や作品作りを通して、仲間と協力すること、話し合っで考えをまとめていくことなどの良さを感じ、技能の向上はもちろん、他者への関わり方や粘り強く取り組むことなどの精神的な面でも成長する生徒が多く見られた。	A a	○生徒の気持ちを大切にしながら、部員と顧問とで目標を設定し、達成感の持てる活動になるようにしていく。
○限られた時間の中で精一杯取り組み、結果を残すとともに、3年生は後輩の見本となる姿を残した。文化部は文化祭での発表やコンクールに向けて主体的に取り組む姿が見られた。	A a	○限られた時間の中で部活動をより効果的にを行い、生徒が満足感をもてる部活動運営に努める。
○日頃の生徒の様子、生活記録や生活アンケートなどから生徒の様子を把握するとともに、変化に気づきその都度対応してきた。不安定な生徒の話をよく聞き、背景を推察しながら人間関係の構築について、保健室、スクールカウンセラーとも連携し、支援してきた。	A a	○担任だけでなく、学年職員や教科担任等との連携を図り、生徒の様子の変化を見逃さないようにする。生徒や保護者がいつでも相談できる体制を再確認し、生徒、家庭に周知しておく。いじめは絶対に許さない姿勢はもろろんのこと、その兆候が見られた際には事実確認や早期対応をマニュアルに沿って組織的に行う。

	導	○集団不応、不登校生への対応	○集団不応・不登校を未然に防ぐ支援策を講じたり、早期対応をしたりすることができたか。	○職員会議や登校支援委員会での情報共有に加え、短時間での支援会議を行い、不登校生徒への対応を検討してきた。校内相談室や市の中間教室など、生徒が安心して過ごせる居場所を提案し、学校に足が向く生徒も見られた。	A b	○一人一人の背景を考え、登校に向けた具体的手立てを検討していく。登校支援委員会にて、支援の方向を具体的に示していく。チームでの対応、外部機関との連携を積極的に進めていく。中間教室との連携は向上してきている。
学 校 運 営	安全	○情報社会における安心・安全への生徒の意識向上	○インターネットや SNS 端末機器の正しい利用の仕方を身につけるよう指導することができたか。	○iPad や SNS の不適切な使用については、学年集会や全校集会を開き、情報モラルについて指導するとともに良い使い方の紹介を根気強く行った。講師を招いてネットトラブルについての講演を行い、注意喚起してきた。また、SNS でのトラブルがあった際には、学年での指導に加え、外部機関にも相談し、早期解決につなげた。	B b	○スマートフォンやインターネットの利用について、SNS への書き込みや動画のアップなど具体的な事例を基にししながら生徒への指導を継続していく。また、学年便りなどを通して保護者にも危険性を知らせ、家庭での指導も依頼していく。
		○交通安全に関わる生徒の意識向上	○交通ルールを守り、安全な登下校ができたか。	○職員による登校・下校指導を実施しその場での具体的な指導を行ってきた。地域のかたによる「安心・安全見守り隊」や、保護者や地域との連携を図りながら生徒の安全な登下校を指導・支援している。	B b	○日頃から、交通ルールやマナー等の規範意識を高める指導を継続していく。生徒会の交通安全委員会が中心となり、生徒同士が声を掛け合い、安全な登下校への意識付けを行っていく。新入生の入学前自転車指導を行い、安全に登校できるよう支援する。
	地域との連携	○地域に向けた学校開放と情報発信	○学校行事、参観日、PTA 講演会に多数の参加者があったか。 ○学校だより、学年通信、学級通信、生徒指導だより、ほけんだより等で、学校や生徒の様子を家庭に伝えてきたか。	○3回の授業参観は予定通り実施。多くの方に来校していただけた。また、学校だよりや学年通信、学級通信等を発行した。学校ホームページでは、特色ある教育活動を新設し、学校の様子を発信することができた。	B b	○一層魅力的な授業作りや内容充実した懇談会の計画などを行い、参観授業や学年学級 PTA への参加者を増やす。学級通信、学年通信などに加え、学校ホームページの更新も継続して行っていく。
		○信州型コミュニティースクールの活用	○信州型コミュニティースクールの活用、取り組みを充実させることができたか	○地域感謝交流会を実施し、約 100 人の地域の方に総合的な学習の発表や学年合唱を見学頂いた。更にキャリア教育、食育、学習支援、クラブ支援、PTA 活動支援は、地域の方の協力を得ながら活動を進め、生徒個々の成長につなげていくことができた。地域の方からも生徒との関わりを楽しみにしているとの声が聞かれた。合わせて、授業改善についても好意的な意見が多く聞かれた。	B b	○市に登録されているボランティアの方の意見もお聞きしながら、共に学習や活動を創り上げていく信州型CSの更なる充実を図っていく。
	研修	○同僚性に基づく積極的な授業参観	○一人二参観として、全校生徒が授業を参観することができたか。	○本年度も「学び合い」を研究テーマに据え、小グループによる校内 QJT の形でテーマを決めて研究を進めた。積極的に授業公開や短時間の授業研究会、指導主事要請を行った。職員室でも気軽に授業や指導方法について語り合う場面が増えている。	B b	○校内 QJT を継続し、教科横断的な小グループでテーマごとに授業づくりを推進していく。
		○同僚性を高める職員研修 非違行為防止 教職員資質向上	○非違行為防止研修、教職員資質向上研修を定期的に実施し、修養に努めたか。	○非違行為防止研修、学級経営に関わる研修、特別支援に関わる研修等、各種研修の機会を設けて、全職員で研修を行い教員の資質向上に努めた。	B b	○校内の人材、外部講師を積極的に活用したい。また、研修時間確保のため、職員会議の時間に短時間行うなど計画的に工夫していく。